

# 高知大学 病院ニュース

〔編集〕  
 高知大学病院ニュース  
 編集委員会  
 委員長 花崎 和弘  
 〔発行人〕  
 高知大学医学部附属病院  
 病院長 杉浦 哲朗

## 病院再開発について

高知大学医学部附属病院再開発室長 花崎 和弘

お蔭様で2010年12月に高知大学医学部附属病院再開発の許可を得ることができました。皆様のご協力・ご支援に対し、心から御礼申し上げます。本再開発の基本理念は「地域に密着した先端医療の推進と高度医療人の育成」です(図)。つまり高知県が目指す「日本一の健康長寿県」になるための先端研究を行い、その研究成果を医療現場で推進できる優れた医療人を育成することです。また少子高齢化が進む高知県において我が国の高齢者医療ロールモデル構築を目指します。そのためには高知大学医学部が中心となって、予防医学や疫学的研究を推進し、県下地域医療の再編成を行う必要があります。

### 1. 医学部再編に連動した病院再開発

本再開発は、医学部再開発との連動により基本理念の達成を目指します。その目玉が、先端医療学推進センターです。

**(1) 研究と診療:** 高知県で頻度の高い疾患の治療成績向上を目指します。例えば、これまで中国四国地方で再生医療研究を本格的に取り組んでいる大学はありませんでした。高知県は肝疾患関連死亡率が全国一で、重症腎疾患症例数も大変多いと報告されています。肝再生医療、腎機能再生医療研究によって、地域に密着した先端医療の推進と高度医療人の育成を行います。

**(2) 教育:** 卒業生の多くが研修医として母校に残らないという深刻な問題を抱えています。「高知で一緒に地域医療をしましょう」だけでは解決策になりません。大学の魅力は知的財産となる優れた研究ができる点です。本センターが、先端医療を推進できる研究マインドを持った高度医療人を育てるだけでなく、多くの医学生が母校に残る動機づけの場にもなるよう願います。また本センターの研究成果はスーパーサイエンスハイスクール支援事業を通して地元の高校生にも還元し、高知大学医学部の魅力をアピールしたいと思います。

### 2. 病院再開発によって高知大学を中心とした地域医療の再編成

#### (1) 質の高い地域医療の実現

高知県の「健康長寿日本一を目指す」長期計画に連動する形で、先端医療学推進センターの情報医療学部門が高知県の予防医学の中心的役割を担うため準備されています。開学以来蓄積されてきた膨大

な医療情報からもたらされるエビデンスの発信が、高知県の予防医学や高知県民特有の生活習慣病への予防対策を推進していくと期待されます。また人材育成・人材派遣を念頭に、研修医用のレジデントハウスを病院再開発に先駆けて本院敷地内に建設する予定です。さらに高知県は東西に長く、短時間での移動交通手段が限られるため、

その問題改善を目指して屋上にヘリポートを設置する予定です。南海地震等の大規模災害医療対策に有効なだけでなく、地域医療機関と密接な連携が取れ、救急体制の強化に繋がると期待されます。

#### (2) 高度地域医療人の育成

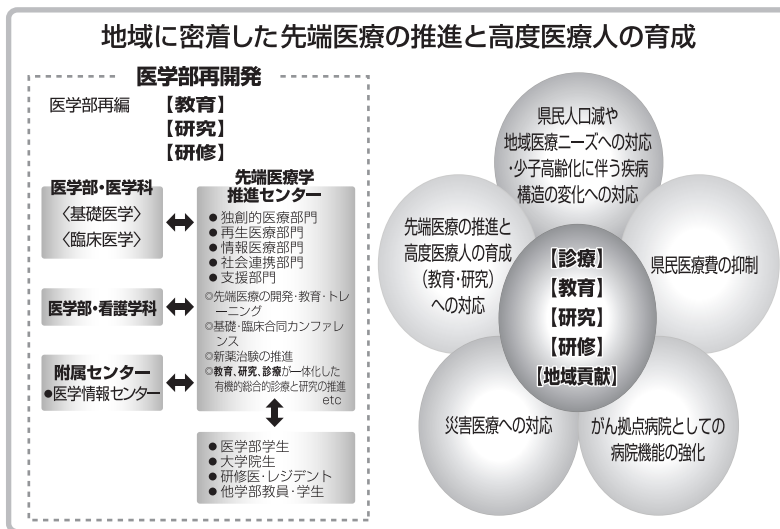
高知県は地域医療のフィールドワークを行う上で最適な環境です。こうした背景から高知県の寄付講座として誕生した家庭医学講座(阿波谷教授)は、高知大学が指定管理者と

なっている土佐山へき地診療所における地域医療実習で有名になりました。また「家庭医道場」による地域医療体験は、学生が地域医療を学ぶ有意義な場となっています。より質の高い地域医療人の育成は、高知県が掲げる「健康長寿日本一を目指す」上でも重要であり、家庭医学講座の果たす役割は極めて大きいと考えます。また新病院には先端医療学推進センターの研究成果を地域の医療関係者に還元し、啓発活動ができる場を設置して、高度地域医療人の育成を目指します。

#### (3) 病院再開発と連動した医学教育の充実

新設予定のレジデントハウス内にロボット手術教育用の練習機を設置する案があります。これによって最新のロボット手術が練習機を使用して随時学べるようになり、高齢者にとって大変有益な低侵襲手術のレベルアップにも直結すると思われます。また平成19年1月四国で初めて開催されて以来毎年行われている中学生・高校生を対象とした「手術体験セミナー」は、受講生の中から本学医学部への入学者が出ている点と、実際の手術室を使用している点で全国的に注目されています。病院再開発の目玉となる新しい手術室の誕生により、本セミナーが更に充実するものと期待します。

以上のように、本病院再開発は医学部再開発と連動しており、特に先端医療学推進センターが中心となって推進するトランスレーショナルリサーチ(基礎研究の臨床への応用展開)は、地域医療の発展に寄与するだけでなく、魅力的な医学教育にも貢献するものと期待されます。



## 初期研修を終えて

総務企画課 卒後臨床研修担当

平成23年3月25日、卒後臨床研修修了証書授与式および修了懇親会を開催しました。今回は、東北地方太平洋沖地震の犠牲者の皆様に哀悼の意を表し、式典を簡素化しました。病院長からひとりひとりに修了証書を手渡し、また、それぞれが今後の抱負を語る心に残る会となりました。研修医16名、歯科研修医4名が初期臨床研修を修了し、新たなキャリアに向かって旅立ちました。

修了懇親会では、研修の到達度とコメディカル評価

をもとに選出されたベスト研修医賞が田村貴彦医師に授与されました。田村医師は、震災支援派遣医療チームの1員として支援活動を行い前日に被災地から帰任したばかりでした。スピーチでは研修の思い出とともに支援活動の様子を述べ、さらに副賞の賞金を修了研修医一同からの義援金に充てると提案し、賛同の拍手につつまれました。明日の高知県の医療を担うすばらしい医師・歯科医師の旅立ちを、私たちは誇りをもって祝福することができました。



高田 和香

2009年4月から高知大学医学部附属病院で研修医として働き始めて二年が経ちました。大学生の時から産婦人科医になりたいと考えていた私は産婦人科コースで研修をスタートさせました。最初の6ヶ月間は産婦人科で研修をしました。この6ヶ月間は、楽しいことばかりではなく辛いこともありました。私にとってとても大切な研修となりました。その後麻酔科や外科、内科、精神科で研修をし、二年目最後の6ヶ月間は再び産婦人科で研修をしました。最後の6ヶ月間は妊婦として様々な実体験をしながら働きました。妊娠悪阻や切迫流産で途中お休みすることもありましたが、産婦人科医になる私にとって貴重な体験だったと思っています(主治医や家族にはたくさん心配をかけてしまいました…)。

そして今年3月に、産婦人科医局の先生方や周りのスタッフ、家族の支えがあり、何とか初期研修を終えることが出来ました。

4月からは学生時代からお世話になってきた高知大学産婦人科に入局し、産休育休後に復帰したいと考えています。復帰後は、高知県周産期医療人材育成プログラムに入って研修医時代の経験をいかし、私らしい産婦人科医めざして精進していきます!!



田村 貴彦

麻酔科学講座、後期研修医の田村貴彦と申します。今年3月で初期研修課程を無事修了することができました。研修中は各科の先生方をはじめ、各病棟の看護師さんやコメディカルの方々、大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

初期研修の2年間は診療の基礎を学ぶ場でしたが、それ以上に重要だったのが、「人」との出会いでした。尊敬する先輩や指導医、志を同じくする同期、今後一緒に診療に当たるスタッフと親しくなり、刺激を受けたのは、とても大きな財産でした。これから人とのつながりを大切に、よりよい医療に従事していきたいと思っています。またそれが、私が進む集中治療という分野に必要不可欠であると感じています。

さて、4月から後期研修医として勤務しますが、今年度の抱負について簡単にまとめてみました。

- ① 時間と期限を守る: 当たり前ですが、非常に重要な事です。守れない人にはいい仕事は回ってきません。
- ② ひとつひとつの仕事丁寧に行う: 基本を大切にすることが、成長するには一番の近道だと思います。
- ③ 1年後の目標として、リスクの少ない症例の麻酔を任せられるようになる。

以上の事を忘れずに日々の診療に取り組んでいきたいと思っています。

まだまだ若輩者ですので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。



**松本 竜季**

この度初期臨床研修を修了し、4月から第二内科で勤務を開始しました。

高知大学の臨床研修は、学生時代から慣れ親しんだ環境という安心感と、心強い同級生の存在もあり、とても恵まれたものでした。短期間でさまざまな診療科や医療機関をローテーションする目まぐるしさから、時には壁にぶつかることもありました。しかし指導医やコメディカルの皆様のおかげで、なんとか無事に研修を終えることができました。本当にありがとうございました。短期間のローテーション研修では、各科の技術を修得することは容易ではありませんが、各科においてそれぞれのプロの視点のそばに立たせてもらい、実際に見て、聞いて、感じる事ができたと思います。

私は県外の出身ですが、高知でここまで育てていただいたことに感謝しています。これからは日々の診療を通じて、私なりに高知の皆様にお返しできたらと思っています。



**中嶋 絢子**

研修医としての勤務を初めて早や二年が経ちました。国家試験の合格発表の日、自分の受験番号を見つけると安堵とともに言葉にできない不安に襲われました。机の上で医学を勉強していたとはいえ、実際には何も出来ないという現実はとても恐ろしいものでした。しかし研修が始まると、不安以上に患者さんを前にした時の緊張感や手技が成功したときの満足感、指導して下さる先生方やスタッフの皆さんの優しさ、そして患者さんから感謝や励ましのお言葉が励みとなり、研修を無事終えることができました。研修科を転々としていくのですが、他の科で研修を始めても廊下で会うと声をかけて下さる患者さんもおり、忙しい日常の中で関わった患者さんの元気な姿をみられるのはとても幸せなことだと思います。研修医として沢山の失敗も経験し、患者さんに勉強させてもらっていることを改めて痛感しています。今後も一医療人として日夜研鑽を積んでいきたいと思っています。



**天野 絵梨**

初期臨床研修医としての2年間があつという間に終了し、4月からは第二内科レジデントとしての生活が始まりました。研修中は指導医をはじめ、看護師さんや全てのスタッフの方々に本当に多くのことを教えていただき、手助けをしていただきました。本当にありがとうございました。

研修医の間は常に指導医の先生に丁寧に指導していただきながら、処方や点滴などの方針を決定していくことでほとんどの研修生活を送っていたように思います。これからはそういうわけにはいかず、自分次第で患者さんの経過に影響を与えてしまう立場になると思います。もちろんその際に教えていただくことも多いと思いますが、3年目は同じ事を何度も教わることをないようにきちんと次に生かすことを目標にしたいと思っています。

不安だらけの3年目のスタートですが、一生懸命頑張りますので今後とも御指導の程よろしくお願いたします。

不安だらけの3年目のスタートですが、一生懸命頑張りますので今後とも御指導の程よろしくお願いたします。

### 新任・着任のあいさつ

医事課長 若狭 忠司

平成23年2月16日付けで、<sup>ゆ</sup>り削商船高等専門学校(愛媛)から着任いたしました。

私は、昭和56年の高知医科大学医学部附属病院の開院時から平成20年3月までお世話になり、その後2年10カ月ぶりに高知大学に帰ってまいりました。医療サービス課勤務は、実に21年ぶりで、組織も業務内容も大きく様変わりし、見る物、聞く物が新しい事柄ばかりで戸惑っております。

また、4月から医療サービス課は、医事課として新しい組織でスタートしましたので、皆が一丸となって病院を支えていくんだという意気込みで、頑張っていきたいと思っております。

さて、本年度から第2期中期目標・中期計画が始まり、附属病院も社会ニーズに呼応した機能・運営強化等の新たな目標達成に向けて進んでいかなければなりません。私も何事に対しても前向きに取り組んでいきますので、皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。



### 平成23年度病院ニュース編集委員会委員名簿 (任期:平成23年4月1日~平成24年3月31日)

- ◆委員長 花崎 和弘(外科[1] 科長)
- ◆委員 上村 直人(神経科精神科 講師)
- ◆委員 岡林 安代(看護部 副部長)
- ◆副委員長 佐野 栄紀(皮膚科 科長)
- ◆委員 小栗 啓義(産科婦人科 講師)
- ◆委員 岡村 一也(総務企画課 課長補佐)
- ◆委員 片岡 浩巳(医学情報センター 助教)
- ◆委員 大野 憲昭(医事課 課長補佐)

## 職場紹介 周産母子センター

文責:松下 憲司

**高** 知大学医学部附属病院周産母子センターは、第三次周産期医療施設として高知県の周産期医療の一端を担っています。

**人** 工呼吸管理など重症児の全身管理を行える新生児特定集中治療室(NICU)6床、後方病床(GCU)8床の合計14床での運用です。

**ス** タッフは医師3名、看護師22名です。早産・低出生体重児、多胎児、母体合併症妊娠から出生した児などの管理を中心に行っており、入院患者数は約120~150人/年です。主な疾患の内訳は、出生体重が1,000g未満の超低出生体重児が5~10人/年、1,500g未満の極低出生体重児が5~15人/年、2,500g未満の低出生体重児が25~40人/年です。また、分娩を扱う施設として、高知県内で唯一精神科の入院施設を有するため、精神疾患をもつ妊娠の方も多く扱っています。



**長** 期入院患者さんには面会ノートを作成し、看護スタッフが赤ちゃんの状態やイベントの報告を行い、少しでも離れている赤ちゃんのことを知っていただけるようにしています。また、お母さん、お父さんの赤ちゃんに対する気持ちを記入していただき、ご両親の胸の内を少しでも理解できるように努めています。

**ま** た、週1回、産科婦人科、小児科、両病棟の看護師、さらに最近では産婦人科外来の助産師や精神科看護師も参加し、合同でカンファレンスを開催しています。妊婦さんの情報を共有し、出産前から対応が必要な患者さんについては話し合いを持ち準備を進めます。特に、退院後の育児環境を整える必要がある場合には、ケースワーカー、地域の保健師、

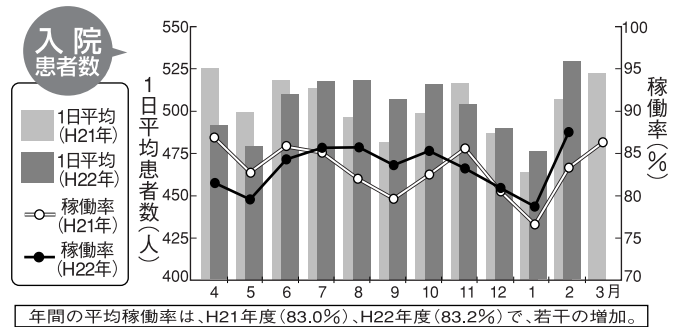
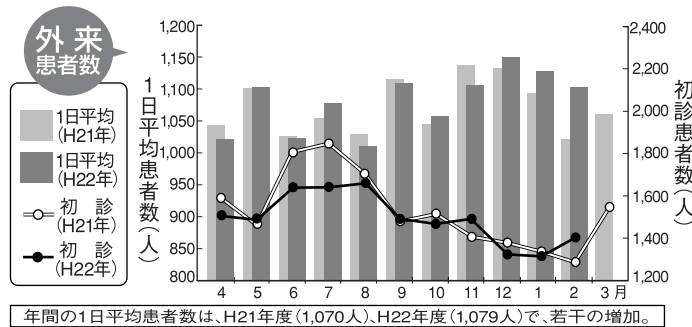
児童相談所、精神科医師などいくつかの関係部署と合同でカンファレンスを開催し、育児環境の整備にも力を入れています。

**や** る気のあるスタッフが多く、医師と看護スタッフ合同で年に10回程度の勉強会を開催しています。小児科医、産婦人科医からの講義だけでなく、理学療法士さんや薬剤師さんからも講義を受けたり、感染管理

についての講義、職場の労働環境に関する講義など幅広い知識の習得に努めています。

**ア** ットホームな雰囲気を生かして、患者さんやご家族が安心して出産を行い、育児へと向かうことができるNICU。退院後も気軽に相談していただけるNICU。そして、「ここで生んで良かった。」と満足していただけるNICUを目指し、日々がんばっています。

### 診療状況



### 編集後記

3月11日の地震、それに伴う被害は計り知れないものです。被災された皆様、そのご家族の方々にお見舞いを申し上げます。高知大学からDMAT出動、その後も災害支援チームを継続的に派遣し支援活動を続けており、「こはすくん」で紹介しています。

さて、高知大学医学部附属病院は、今年30周年を迎える節目の年となります。そして病院再開発が現実のものとなり進んでいきます。第1面に花崎先生が病院再開発について書いてくださいました。

新病棟完成(平成26年度末予定)の折りには、「初期研修を終えて」と感想等を載せてくださった先生方が活躍されていると思います。

この病院ニュースは、138号の発刊となります。第1号は高知医科大学であった昭和63年4月20日「高知医大病院ニュース」として発行されました。その後統合によって、「高知大学病院ニュース」となりました。より親しみをもって多くの方々に読んでもらえる「病院ニュース」をめざし、紙面構成や記載内容を検討しています。職員の皆さん方からのご意見や寄稿をお待ちしています。(文責:楠瀬 伴子)